

平成 25 年度静岡大成高等学校 学校評価書

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
1. 基本的生活習慣と基本的模範意識の確立を図る。	社会や家庭、学校のルールをしっかりと守らせる。	ルールの主旨や必要性を理解させ、ルールを守ろうとする意識を育てる。また、自らも社会や職場のルールを守る。	A	日常的に生徒への呼びかけを行い、一定の意識の向上は図れた。今後も継続した指導が必要である。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度も述べたが、生活習慣や規範意識の確立について高校は全体的に中学より自己評価率が低い。いろいろな学校から様々な生徒が集まってくるため、なかなか指導が難しいと思うが、それでも自己評価率が前期に比べよくなっている。地道に繰り返し、諦めることのない指導をお願いしたい。 ・時間を守ることは基本的な事項であり、生徒、先生が一丸となって時間厳守の習慣化に取り組んでもらいたい。
	あいさつがしっかりできるようにする。	自らが、分け隔てなくあいさつをし、正しい言葉遣いや立ち振る舞いに心がけ、生徒の模範となる。	A	教員から声をかけ、生徒の見本となるような言動が、日常的に見られている。	A	
	服装や頭髪を正しく整えさせる。	学生として正しい服装容儀についての認識を持たせる指導をする。	B	落ち着いた状態にはなってきているが、さらに、全教員が同一歩調で指導していく必要性を感じる。	B	
	身の回りの整理・整頓、校内美化に自主的に取り組めるようにする。	生活環境や学習環境を整えることの大切さを理解させ、行動が習慣となるよう指導する。また、自らも身の回りや職場の環境整備に気を配る。	B	毎日の全校掃除により、校舎や教室の美化は保たれている。進んで身の回りをきれいにする気持ちも、今後育てていきたい。	B	
	時間厳守の習慣化に努める。	時間を守ること、時間を考えて行動することが自然にできるよう、根気強く指導する。また、自らが時間を守り行動する。	B	時間を守って行動する生徒は多い。朝読書の遅刻をなくすことが今後の改善点である。	B	
2. 授業改善に努力し、学力の一層の向上を図る。	わかりやすい授業の工夫に心がけ、チャイムと同時に授業を開始する。	一人一人の学力を伸ばす授業作りについて研究する。チャイムが鳴る前に教室に入り、授業の態勢を作る。	A	i Padの利用など、授業の工夫が見られた。授業開始前に教室に行き授業が始まる体制ができています。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の生徒は今まで勉強に費やす時間が少なかった生徒が多く、その意味では伸びしろも大きいと思われる。自宅学習を進めることになる2Pは期待できる。 ・やる気のない子をその気にさせ、あるいは中程度以下の学力アップを図るため、様々な工夫をされており、教科会を時間割の中に組み込む等、先生同士のコミュニケーションをできるだけ図る仕組みも取り入れていれており評価できるが、より一層の創意工夫をお願いしたい。
	課題・ノートの点検・確認テスト等、学習内容の基礎の定着を図る。	日常的に課題を出し、ノートの点検を行う等、家庭学習の習慣化を図る。基礎力診断テストを分析し、的確な学習指導を行う。	B	課題の提供、ノートの点検、テストの分析と学習指導をこまめに行った。家庭学習時間をさらに多く多くすることが今後の課題である。	B	
	シラバスの充実に努め、授業内容や評価を常に検証し改善を図る。	教科会で、指導内容、指導方法や、成績評価について日常的に話し合う。教科として、問題点の解決に努める。	A	主要5教科は、教科会が時間割に組みこまれ、常時検討できる体制が整っている。	A	
	教材研究や授業公開に積極的に取り組み、「授業力」の向上に努める。	常に、教科の専門的な知識の習得に心がける。電子教材を用いた授業を研究・実施し、授業の幅を広げる。	B	電子教材を日常的に利用している教科が出てきており、今後、さらに普及させていきたい。	B	
	生徒による授業評価を真摯に受け止め、授業の改善に努める。	評価から自分の授業をイメージし、課題を確認し、改善のために努力する。	A	教員一人ひとりの意識・姿勢の問題であるが、それぞれが心して取り組んでいると考える。	A	
3. 進路意識の高揚を図り高い志のある進路目標の実現に努める。	第1学年は自己理解と共に将来を見通した進路意識・目標作りをする。 第2学年は目標達成のための学力を充実させると共に職業観を養う。 第3学年は目標達成のために能力を最大限発揮させ進路の実現を図る。	3年間の進路指導の流れを理解・熟知し、3年後を見通した進路指導を考える。 クラス全体に対する指導と、生徒個人に対する指導を明確にし、学習指導やマナー指導等も含めた進路指導計画を作成する。 生徒・保護者とのコミュニケーションを十分図りながら指導することを心掛ける。 指導おける問題点は、学年会で出し合い、進路部と連携して問題の解決にあたる。	A	3年後の進路の実現を目標に、進路指導および選択科目の決定が行われている。面接期間を設け、生徒・保護者とのコミュニケーションもできる限り図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> ・本校は、大学、専門学校、就職を希望する者がほぼ拮抗している。見据える目標が大きく3つに分かれる生徒が1つの教室に混在していることから教師は大変と思うが、その身になって生徒と歩むことが私学の所以でもあるので、是非、創意工夫していただきたい。 ・進路決定や目標の動機づけのためにも、様々な分野の人の話を聞くのも良い。対生徒、対教師向けに、業者が連絡調整して専門講師を集めるようなスタイルの業務もあるので、検討してみるのもいいのではないかと。
	常に進路に関する情報や知識の習得に努め、適切な進路指導を行う。	進路部やさまざまなメディアから、積極的に情報を収集し、時代に即応した進路指導を研究・展開する。	B	情報の提供と収集が、さらにシステムチックに行われるよう取り組む必要がある。	B	
	進路の実現に向けて最大限のバックアップができる体制を作る。	1年次から進路意識を持たせる指導を継続して行う。進学補習、就職補習、面接指導、三者面談等を実施し、生徒の進路決定につなげる。	A	進路学習用のテキストを利用し、1年次からの進路指導を実施した。補習や面談は、限られた時間の中ではあったが、概ね実施した。	A	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった

評価対象	評価項目	具体的取り組み	自己評価		学校関係者評価委員会	
			評価点	学校としての反省と改善策	評価点	意見
4. 部活動・生徒会活動などの課外活動や学校行事の充実とそれらへの積極的な参加を促す。	部活動の活性化に努め、学生生活に潤いと活気を与える。	部活動を通して、体力、技術、精神力を向上させ、あいさつ、言葉遣い、礼儀作法を身に着けさせる指導を行う。	A	あいさつ、言葉遣い、礼儀作法を身につける指導が日常的に行われた。	A	・部活動の在り方を検討する中で、本年度から英語部を創設すると聞いた。ぜひ、軌道に乗せていてもらいたい。
	学校行事を通して、クラスや学年の団結力を強め一体感を図る。	行事の意義を理解させ、主体的に行事に参加するよう働きかける。また、クラスや学年の一員としての自分の役割を果たすよう指導する。	B	生徒が主体的に行事を企画・運営できるように、教員が仕掛けを試みる必要がある。	B	
5. 学習習慣の確立を目指し、学年部の結束と充実を図り生徒を豊かに育てる。	学習支援体制を強化し、確かな学力につなげる。	学年教員が一丸となって、毎日のクラス指導や事後指導等をサポートする。テスト結果から得られたデータを分析し、指導を常に点検する	B	テスト下位者に対する追試験や、テスト結果の学年での分析など、学年のサポートがあった。分析結果の活用をさらに進めていく必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> すべての生徒には個人差があり、生徒を一つの教育方向にまとめ上げていくのは難しいが、そこを何とかしていくのが先生の役目と思う。 2Pは本年度から始め、ようやく定着しそうである。また、マナトレも基礎力診断テストに反映されており、学力の底上げを図る努力が伺える。
	朝読書、マナトレ、2P の指導体制を確立する。	一貫した指導を継続し、生徒に自主的に取り組ませ、毎日の読書・学習を定着させる。	B	担任は多くのエネルギーをかけて取り組み、一定の定着が図られている。生徒が自主的に学習に取り組むようさらに指導が必要である。	B	

評価の基準 A 達成できた B おおむね達成できた C あまり達成できなかった D ほとんど達成できなかった